**発表タイトル**

**―サブタイトル―**

（１行あける）

姓 名（所属）・姓 名（所属）

（１行あける）

キーワード：キーワード A，キーワード B，キーワード C

（１行あける）

**１．はじめに**

これは予稿集に掲載される原稿のテンプレートです。以下の執筆要領に従って書くか、もしくはこの文書を保存して使用してください。テンプレートの発表タイトルや発表者名、見出し、本文などそれぞれの場所にカーソルを合わせてそのまま入力すれば、簡単に共通のスタイルで原稿ができるようになっています。不要な部分は削除してください。

（１行あける）

**２．執筆要領**

(1) 書式

原稿は PC（ワープロソフト）を用いて作成してください。和文、英文ともに A4 判用紙を使用し、図（カラーも可）、表、引用文献全てを含めて 2 ページとします。マージン（余白）は上下20mm、左右25mm とし、基本フォントは明朝体（和文）、Times New Roman（英文・英数字）とし、基本文字サイズは 11 ポイントとします。また、1 ページは 48 行、各行の行間を 1 行とし（行間の調整はしないでください）、各行の文字数は全角で 41 文字、インデントは、和文の場合は全角 1 文字空白スペース、英文の場合は半角 3 文字空白スペースを基本としてください。ファイル提出の際には、Word と pdf の両方（完全原稿）をご提出ください。執筆要領から逸脱している場合、編集委員会で修正、あるいは執筆者に差し戻しの上、再提出を依頼することがあります。

(2) 項目：原稿には次の項目を含めてください。

　　a. タイトル： 16 ポイントのボールド体。中央揃え。2 行以上にまたがる場合は、行間が広くな りすぎないように注意。サブタイトルは 16 ポイントのボールド体、前後をダッシュ（―）で囲 み（英文ではコロン（:）を使用）、発表タイトルの次の行から始める。

　　b. 発表者情報： 11 ポイント。中央揃え。タイトルから 1 行あけて（11 ポイント、以下行をあけ る場合は同じ）氏名（所属）の形式で。複数の場合、中黒（・）で横に並べる。

　　c. キーワード： 11 ポイント。中央揃え。発表者情報から 1 行あけて、カンマで区切る。

　　d. 本文： 11 ポイント。キーワードの下 1 行あけて本文を始める。見出しはボールド体にする。 (1) 以下などのサブ見出しはボールド体にしない。以下和文での句読点は（、）と（。）を基本 とする。

　　e. 引用文献： 11 ポイント。原稿内で引用した文献の一覧。

(3) 提出、問い合わせ先：提出の際には、次の項目に注意してください。

　　・ 原稿の提出には埼玉研究大会ウェブサイト上の予稿集原稿提出フォームを使用し、ファイル （Word と pdf）を添付して、提出すること。

　　・ ファイル名は、半角小文字で発表（代表）者の名字と名前を使用すること。例えば、「埼玉太 郎」の場合、ファイル名は、saitamataro.doc(x)、saitamataro.pdf となる。

　　・ 締め切りは、2025年5 月 30 日（金）17 時 00 分（日本時間）。送信後、受領した旨の返信メールが自動送信されるので確認のこと。ファイルを送信した 2 日後になっても受領のお知らせメールが届かない場合、また、その他予稿集原稿に関する質問等がある場合は埼玉研究大会ウェブサイトの「お問い合わせフォーム」から問い合わせしてください。

(4) その他

　　・ 研究発表においては、「結果は、当日口頭にて発表する。」という要旨の構成は避け、「研究 結果」もはっきり記述されている要旨の構成を心掛けること。

　　・ 様式不備や誤りのないよう、十分に注意すること（英文の場合要ネイティブチェック）。

　　・ タイトル・発表者（所属）などは発表申込時から変更不可。予稿原稿の使用言語 [日本語/英語] は、口頭発表時の使用言語に準じること。所属の書き方は下記参照。

　　◆ 教員（小・中・高・大の専任または非常勤）の場合：非常勤の場合でも（非）とは記載しないこと。

 ※ 学部名やセンター名などの詳細な所属の記載は不要。

 A. 県立・市立，都/府立などの場合：(a)～(c) 参照

 (a) 公立小学校・中学校の場合、市町村名、都道府県名を含めて記載

 　　　 埼玉県さいたま市立ふたば小学校 Futaba Elementary School, Saitama, Saitama

 　　　 埼玉県草加市立ひまわり中学校 Himawari Junior High School, Soka, Saitama

 (b) 公立高等学校の場合

 　　　 埼玉県立ゆり高等学校 Saitama Prefectural Yuri Senior High School

 　　　 浦和市立すみれ高等学校 Urawa Municipal Sumire Senior High School

 　　　 東京都立あじさい高等学校 Tokyo Metropolitan Ajisai High School

 (c) 公立大学の場合、学校発表の英語表記にする

 　　　 埼玉県立大学 Saitama Prefectural University

 B. 国立や私立の場合、都道府県名は不要、学校発表の英語表記にする：(d)～(e)参照

 (d) 私立学校の場合

 花咲徳栄高等学校

 Hanasaki Tokuharu High School

 (e) 国立大学や私立大学の附属学校等の場合

 埼玉大学教育学部附属小学校

 Elementary School Attached to the Faculty of Education, Saitama University

 東京成徳大学深谷高等学校

 Tokyo Seitoku University Fukaya High School

 (f) 国立大学や私立大学の場合

 埼玉大学 Saitama University

 共栄大学 Kyoei University

　　◆ 大学院所属の専任・特任教員・非常勤の場合

　　　　　文教大学大学院 Graduate School, Bunkyo University

　　◆ 大学院生（修士・博士課程）の場合 ※修士課程と博士課程の区別はしない。

　　　　　獨協大学大学院生 Graduate Student, Dokkyo University

　　◆ 現職教員で、かつ大学院生である場合

　　　　　勤務先か所属大学院名のどちらか一方のみを記載することとし、併記しないこと。

（１行あける）

**３．謝辞**

　謝辞を入れる必要がある場合は、引用文献の前に置いて見出しに連番を振る。

（１行あける）

**４．引用文献**

Publication Manual of the American Psychological Association. （American Psychological Association, 最新版）（第 7 版 2020 年）に準拠する。文献は本文中に記載されたものに限る。2 行以上にわたる場合は、2 行目以降はぶら下げ全角 2 文字とする。

【記載例】※日本語文献をｱｲｳｴｵ順で出し、続けて英語文献をｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄ順で出す。

斉田智里 (2014). 『英語学力の経年変化に関する研究：項目応答理論を用いた事後的等化法による共通尺度化』 風間書房.

西垣知佳子・川名隆行・中井康平・見目慎也・山崎達也 (2024). 「中学生が身に付けている文法知識の調査」 『関東甲信越英語教育学会誌』 第38号, 127–140.

Canale, M., & Swain, M. (1980). Theoretical bases of communicative approaches to second language

　　teaching and testing. *Applied Linguistics*, *1*(1), 1–47.